

科目責任者 竹内 典子 (英語・英文学)

■ 教育目的

大学で学ぶ英語は将来の仕事と研究活動で使うことのできる英語であるということができる。将来薬剤師・薬学研究者として医療の進歩に役立つ科学技術と知識を獲得し、また自らの意見や考え方を発信することができるような英語力を身につけることを目標とする。薬学の専門科目の教育が日本薬学会の示した「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に基づいて実施されるのに合わせて、この科目では薬学の領域を広く知ることができるようなあまり専門的ではない英文を読み、高校までに培った英文法と英語力を確認しながら、バランスの取れた英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）の向上をめざす。医学英語の基本、科学的英語の読み方、病院や薬局で薬剤師が必要とする口語表現の習得も目的とする。

■ 学習到達目標

1. 易しい英語で書かれた文章を速読し、主題を把握することができる。(知識・技能)
2. 易しい英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。(知識・技能)
3. 薬学に関連する英語の専門用語のうち代表的なものを列挙し、その内容を説明できる。(知識・技能)
4. 短い日本語を文法にかなった英文に直すことができる。(知識・技能)
5. 自然科学各分野における基本的単位、数値、現象の英語表現を列記できる。(知識・技能)
6. 英語の基礎的音声を聞き分けることができる。(知識・技能)
7. 主な病名、組織・臓器名、医薬品名などを英語で発音できる。(知識・技能)

■ 準備学習（予習・復習）

予習：授業予定の章の CD 音声を聞きながら英文を読み、分からない単語を辞書で調べる。練習問題に自分で取り組む。薬学に関連する内容を専門科目の教科書などで調べる。

復習：授業で習った英文を読み、構文、語句表現、内容を完全に理解する。薬学に関連する分野の情報をインターネットなどで検索し視聴する。

■ 授業内容

コアカリキュラムの分類にもとづいて、以下の内容の英文を学習する。

1. Collaboration Will Shape the Future of Health Care(将来の医療を形作るチーム医療)
2. Effective Medication Counselling: Understanding of Patients' Needs and Feelings (効果的な服薬指導：患者のニーズと感情の理解)
3. Enzyme Inhibitors (酵素阻害物質)
4. Introduction to How Nuclear Medicine Works (核医学概論)
5. How DNA Works (DNA の働き)
6. NIH-Sponsored Research Yields Promising Malaria Drug Candidate (NIH が資金援助した研究が有望なマラリア治療薬の候補を生み出す)
7. Understanding Medications and What They Do (医薬品とその働きを理解する)
8. Enzymes and Chemical Reactions (酵素と化学反応)
9. Pain: Hope Through Research (痛み：研究から希望へ)
10. The Cell (細胞)

各章に設けた Exercises では英文内容把握、文法の確認、英作文、医療の専門用語を学び、主に医療に関する英語力の拡大を図る。

■ 授業分担者

A組 1班：竹内 典子、A組 2班：瀬戸川 順子、A組 3班：林 弘美

B組 1班：林 弘美、B組 2班：木村 啓子、B組 3班：須田 篤也

C組 1班：田沢 恭子、C組 2班：須川 久美子、C組 3班：須田 篤也

■ 成績評価方法

期末試験 (90%) および小テスト (10%) で総合評価する。

■ 教科書

『改訂版薬学英語 1』 日本薬学英語研究会 編 (成美堂)